

米国ワシントン州コミュニティカレッジにおける 学業定着方略に関する調査研究

志 田 秀 史

【要旨】

本研究の目的は、米国ワシントン州コミュニティカレッジにおける学業定着方略の実態を現地調査に基づき明らかにし専門職大学への示唆を得ることにある。調査の結果、学業定着の方略（構成要素及び手順の計画）に必要なものは、構成要素としてアセットベースプログラムの開発と運営、サクセスセンター等に配置されるチューター及びメンターの開発であった。続いて手順として、①アセットベースプログラムに登録させる、②今後のキャリアと履修科目の計画についてメンターが支援する、③教科のウィークポイントについてチューターが支援する、④奨学金申請の事務手続きについて支援するという四つの実施であった。

キーワード：コミュニティカレッジ、学業定着、準備教育、専門職大学

1. はじめに

本研究の目的は、米国ワシントン州コミュニティカレッジにおける学業定着方略の実態を現地調査に基づき明らかにし、日本の専門職大学への示唆を得ることにある。ワシントン州コミュニティカレッジを選択した理由は、2015年1月に、Community Colleges for International Development, Inc.（以下、CCID）会長であるワシントン州ハイラインカレッジ学長に対して、効果的な学業定着方略を展開するアメリカのコミュニティカレッジの選定と視察を依頼したところ、会長自身が学長を勤めるワシントン州ハイラインカレッジは、2014年にアメリカコミュニティカレッジ協会から優秀ダイバーシティ賞、及び4年にわたるダイバーシティ高等教育優秀賞（Insight Into Diversity 誌 2013-2016）を受賞しており、「アセットベース（身の上ベース）」に力を入れていること、さらに会長がリーダーを勤めるワシントン州コミュニティカレッジ（及びテクニカルカレッジ）委員会では、「チューター・メンターシステム」に力を入れて新入生を包括的に支える学業定着方略を展開しているとのことで、支援方法の先駆的な情報が得られると筆者が判断したためである。

本研究では、「学業定着方略」という用語を用いる。定着について谷川裕稔は retention を定着と訳し、それを「学生がコミュニティカレッジを退学することなく、自らが設定した教育目標を目指す状態」と定義している（谷川 2001:129）。次に、方略について日本の

教育学の分野では、教授方略 (instructional strategy) という用語がある。鈴木 (2000) は、「教授方略」を「教授目標を達成するために、どのような学習環境を整え、どのような働きかけをするかについての構成要素と手順の計画 (処方箋) であり、また、これを『指導方略』ともいう」と定義している。そこで本研究では、この二つの定義を活用して、「学業定着方略」を「学生が退学することなく、自らが設定した教育目標を目指す状態にするために、どのような学習環境を整え、どのような働きかけをするかについての構成要素と手順の計画 (処方箋) と定義する。

2. コミュニティカレッジと専門職大学との比較

コミュニティカレッジはアメリカの高等教育機関として、20世紀初頭に設立されて以来、おもに2年制のショートサイクル教育機関として発展してきた。コミュニティカレッジの教育機能について研究した山田 (1997) によれば、コミュニティカレッジは、2年間の学習課程を備えていることから、日本の短期大学と表面的な形態は類似しているものの、その社会における機能には明白な違いが見受けられ、アメリカ社会においては、コミュニティカレッジは4年制高等教育機関への転学を前提とした大学前期教育コース、並びに中堅技能職 (セミプロフェッショナル) の養成を目指す職業教育及び成人・生涯教育のコースを提供している。職業教育や成人・生涯教育は、人的資源の開発を通じて地域経済とその地域社会 (コミュニティ) を発展させるという効果をもたらすものと認識されているという。現在では2年制課程以外に一部4年制課程が設立されており、2018年現在17州の約90のコミュニティカレッジが全州で約900の学位プログラムを提供しているという側面もある (Povich 2018)。特に2004年にアメリカコミュニティカレッジ協会によってバカロレアへのアクセスの改善が発表され、その中の勧告のひとつに学士号取得のための成人学習者のニーズに対応するため、コミュニティカレッジにおいて、応用学士号 (Applied baccalaureate) の開発を可能にするために州の方針を変更する必要があるという提言が契機となった (American Association of Community Colleges 2004)。4年制では、教育、健康、科学、技術、ビジネス、公安等六つ以上の分野の学士を提供しており (Community College Baccalaureate Association 2013)、また、キャリア志向の応用学士が取れるカレッジが増えてきている (Petrosian 2017)。

そのコミュニティカレッジの学業定着の問題は深刻である。ACT2010 (American College Testing Program 2010) によれば、2010年現在で1年次から2年次への定着率は56.0%である。また、3年以内の卒業率は27.4%である。定着率の悪さにはアフリカ系アメリカ人、ヒスパニック系等の移民の入学者の識字の問題が含まれている (Petrosian 2017)。一方、アメリカの高等教育ではオバマ政権下の2015年において、America's College Promise という政策を掲げた。この政策では、コミュニティカレッジを市民との重要なアクセスポイントとし、労働市場で需要が大きい学位・資格¹⁾につながる卒業率の高い職業教育機関に改革してきている。つまり、コミュニティカレッジは、市民の職業教

育において重要な機能を持っている。

これに対して、専門職大学は、2019年4月に、4年制大学2校、短期大学1校で発足した。専門職大学の機能には、特に成長分野を中心に事業の現場の中核を担い、現場レベルの改善・革新を牽引することのできる人材養成が期待されている。労働市場で求められる人材の養成である。一方で新卒以外の若年者雇用政策に直結する新学校種として期待されている。その特徴として、「社会のニーズへの即応」が掲げられ産業界等と連携し、社会人が学びやすい仕組みを備えることとされている。特に前期と後期に区分して、社会人への学修機会に配慮されている。加えて、リカレント教育として、転職や昇進等の際必要となる職業知識及び技能をいくつかの科目群として、小単位にまとめたモジュール教育開発への期待もある。このように、専門職大学では多様な入学者に対して教育が提供されることから、個々の学生の学力も多様化していることが予想されている（寺田ほか2018）。大学の機能別分化を提示した中央教育審議会（2005）は、「幅広い職業人養成」、「地域の生涯学習機会の拠点」及び「総合的教養教育」に重点を置く大学におけるリメディアル（補習）教育の必要性を指摘している。専門職大学は、「幅広い職業人養成」及び「地域の生涯学習機会の拠点」の機能が期待されている。また、人的資源の開発を通じて地域経済とその地域社会の発展に寄与するという側面も期待されている（中央教育審議会2018:13,39-45）。学位の種類は、コミュニティカレッジの応用学士に対して、学士（専門職）である。

以上、双方ともに、地域社会の産業現場で働く人材養成という点は機能を共有する。加えて、アメリカは西欧諸国と比較して中等教育、中等後教育及び高等教育の大衆化が早い時期から進出した点で戦後日本のそれと類似点を持っている（金子1994:23）。したがって、アメリカコミュニティカレッジの学業定着方略を合わせ鏡として日本の専門職大学の学業定着方略に対する示唆を導き出す意義は決して小さくないと考える。

しかし、日本の専門職大学とアメリカのコミュニティカレッジは、学業定着の文脈において異なる点がないわけではない。特筆すべき相違点は、学業定着における著しい人種・民族間、階層間の格差であろう。人種・民族マイノリティは、学業定着に多大な困難を経験している。現在、日本では学業定着の問題が人種マイノリティ問題としては位置づけられていないため、この点は対照的である。

3. 先行研究

コミュニティカレッジにおける学業定着方略に関連する代表的な研究には、谷川（2001）がある。そのなかで谷川は、12カレッジの補習教育の実状（クラス編成、授業形態、担当教員の所属部署、教材）についてのアンケート調査結果を分析している。この研究が日本の高等教育研究において最もコミュニティカレッジの実態に迫ったものといえる。しかし、この研究によって補習支援の構造は概観できたといえるが、方略レベルまでの言及ではなく、実態の全てが明らかになったとは言い難い。そこで本研究ではこれに引き続く形

で、日本の専門職大学の現場への示唆を目的としてコミュニティカレッジ現場で展開される方略（構成要素及び手順の計画：処方箋）という観点から、実態に迫る質的調査を行うこととした。

4. 調査対象と方法

調査対象は、CCID 会長推薦によるハイラインカレッジ、ベルビューカレッジ、グリーンリバーカレッジの三つとした。1の冒頭で述べたとおり、ワシントン州のコミュニティカレッジは、「アセットベース（身の上ベース）」、「チューター・メンターシステム」に力を入れて新入生を包括的に支える学業定着方略を広く展開している。また、ワシントン州では、チューター及びメンターの機能を分けて設計がされている。

調査方法は、ハイラインカレッジ、ベルビューカレッジ、グリーンリバーカレッジへの半構造化インタビューとし、学業定着方略を実際に実施する上で中心的な立場にある部門責任者及びメンバーへの聞き取りを主たるデータとして用いる。まず、事前に質問項目として、学業定着のための方略及び特徴的なプログラムについての質問を用意し、電子メールで送信した。次に調査当日は、事前送信した質問項目を元に半構造化インタビューを実施した。調査後は、調査対象者の語りのトランスクリプトの中から特徴的な語りの箇所を抽出するディスコース分析を行った。最後に、抽出した語りの箇所から構成可能な彼らの認識の論理を抽出し、筆者が再構成する形にまとめた。なお、調査当日に資料として調査対象機関からいくつかの資料をいただいた。それも以下の中で一部引用している。

5. 調査結果

はじめに、ワシントン州において、コミュニティカレッジ及び大学に渡って設計されているチューター及びメンターの機能に触れることにする。先に挙げた調査対象とした三つのコミュニティカレッジでは以下の機能に沿って育成及び配置がなされている。

チューターは、特定科目において教材理解に苦勞している学生に内容の専門知識を提供する者であり、メンターは、登録から卒業までの期間、学生の人生や目標にあった個別計画を作成し、必要な情報を提供しながら学習計画の確立を支援するために対象学生の長所と能力開発ニーズを評価する者である（WGU 2019）²⁾。

5.1 ハイラインカレッジにおける学業定着方略

ハイラインカレッジでは、はじめに、学長、副学長、学部長からハイラインカレッジの学業定着方略のおもな特徴について説明を受けた。次に、特に力を入れているアセットベースプログラム並びにチュータリングセンターについて、担当責任者よりその特徴について説明を受けた。さらに、入学登録から第1学期までのおもな学業定着方略についてカレッジレベル準備教育部長、学生持続支援サービス担当（英語担当教員、数学担当教員）、イングリッシュセカンドラーニング（ESL）担当教員から説明を受けた（調査日は2015

年10月27日)。

(1) 概要

1961年に設立されたハイラインカレッジは、2年制及び4年制カレッジであり、現在17,000人近くの学生が学ぶ。また、州内で最も多様な人々を学生として受け入れている高等教育機関であり、70%を超える有色の学生と120を超える民族が大学で学んでいる。ハイラインカレッジのミッションは、多文化世界及び世界経済の多様なコミュニティにサービスを提供する高等教育の公的機関として、学生の関与、学習、達成を促進し、大学全体で多様性とグローバリズムを統合し、コミュニティ内の関係を維持し、人材の持続可能性を実践することである。その結果、おもな成果として、2014年アメリカコミュニティカレッジ協会からの優秀ダイバーシティ賞、及び4年にわたるダイバーシティ高等教育優秀賞 (Insight Into Diversity 誌 2013-2016) を受賞した。なお、授業料は、ワシントン州議会の決定によって、米国市民は1単位あたり110.26ドル、非居住者(留学生)は288.13ドルとなっており、単位ごとに加算される仕組みになっている。

(2) 学業定着方略の特徴

ハイラインカレッジにおける学業定着方略として必要な構成要素と手順は以下である。まず、構成要素は、アセットベースプログラムの開発と運営並びにスチューデントサクセスセンターのチューター・メンター開発と配置である。次に手順としては、①大学での人種・民族に渡る多元的 student 同士の相互扶助の大切さを理解させる、②個々の学生に合った単位の取り方を教える、③家族が大学経験のない学生を成功させる(特に学業支援・奨学金申請支援を行う)、④生活と心理面を継続確認する、という順序で支援している。教員以外にその支援人材として、チューター及びメンターを活用しながら、現在第1年次第1学期から第2学期への学業定着率を82%まで改善している。

1) アセットベースでの教育について

ハイラインカレッジにおいて、アセットベースが最も強調したいキーワードであるという。アセットベースとは、個人の身の上を大切にすることを基盤におくということである。その教育の方法は、学生の身の上に沿って、授業外にコミュニティを作り、その身の上を重視して教育することである。このアセットベースのターゲットは、おもに低学力学生である。なお、このシステムは他国の高等教育業界で注目され、近年では、エジプト、中国、南アフリカの教員の訪問が多い。その訪問教員の研修期間は、6ヶ月程度である。訪問者は、アセットベースの考え方や方法を母国に持ち帰って活用している。

① Umoja プログラムについて

Umoja プログラムは、ワシントン州では初めて導入された。アフリカ系アメリカ人が、他文化の学生とアカデミックな成功、個人の成長と自己実現を共有することを目的とした専門的な学習コミュニティである。このプログラムができた背景は、以前、アフリカ系ア

アメリカ人学生が、入学後初めに履修した45単位の成績を分析したところ、大学レベルの英語、数学の平均点に満たない学生が多かったからだという。このコミュニティには、研修、アドバイス、カウンセリング、チュータリング、メンタリング、奨学金申請支援についてのプログラムが用意されている。ここでは、メンバー同士の相互扶助を大切にしており、個人主義や人を蹴落とす競争力に取って代わる相互扶助による1年次のプログラムである。ゴールは、すべての学生が成功することである。ここには専従職員の配置があるが、新入生への1 on 1を実現できるのは、上級生チューター及びメンターがいるためである。(Gay 2015)

② MESA プログラムについて

MESA プログラムは全米のプログラムであり、ワシントン六つのカレッジでも行われている。ハイラインカレッジは、そのリーダーである。ハイラインカレッジでは二つのタイプの学生についてフォローしている。家族の中で初めて大学に入学する学生、そして数学と理工はよくできるが家庭において経済状況が不遇な学生である。この二つのタイプの学生に対して、4年制大学からの入学情報提供、学費の相談、4年制大学への編入相談並びに産業界との連携などを行っている。MESA では、GPA が3.5以上の学生に、ティーチャーズアシスタントになるためのワークショップを用意して養成している。このティーチャーズアシスタントとは、呼称は異なるが、チューター機能のことである。2015年10月現在、定員75名に対して69名の学生が活用している。ここには専従職員の配置があるが、新入生への1 on 1を実現できるのは、上級生ティーチャーズアシスタントがいるためである。(MESA Center2015)

③ TRIO プログラムについて

TRIO プログラムは、アメリカ教育省が全ての学生が学べる環境を作るために、1965年から助成金を募って創った。対象者は、家族で初めて大学の卒業を目指す学生や障害を持つ学生などである。TRIOの活動内容は、学生の包括的支援であり、学業支援、奨学金申請、転校転科申請、キャリア開発支援などである。これらは彼らのステージアップを目的としている。TRIO プログラムは、5名のスタッフで運営しているが、スタッフはすべてコーディネータであり、他に上級生メンターたちとともに支援にあたっている。現在は150名から200名の学生をサポートしている。その対象学生については、個人別に細かく調査しながら支援している。ワシントン州を統計的に見ると、このような子どもたちは高校卒業後、見習い工、またはインターンなどにいければ、まだ良い方で、厳しい場合は、そのまま生活できなくなることから、大学に進学するためにTRIOを活用してきたのである。そのサポートは、学生本人以外にその家族にまで及ぶ。そのような背景の学生が在校生の18%を占める。このTRIOの報告は、5年ごとに改定が行われ、大学自体の成果評価のひとつになる。このプログラムで新入生への1 on 1が実現できるのは、上級生メンターがいるためである。(Student Success Center 2015)

2) チュータリングセンター

求めるすべての学生に対して、学業支援をおこなうチュータリングセンターがある。センターは、科目の難解なコンセプトについて支援するだけでなく、学習者の共同体を組織し、開かれた雰囲気を作ることに努めている。学習のためのコンピュータ操作支援、資料集めなどグループまたは個別に支援する。予約の必要はなく、いつでも訪れることができる。1年間で2,000人程度の学生来所がある。どの科目の相談にも対応しており、ここには上級生の訓練されたチューターが配置されている。このチューターは、学生本人と教授たち双方の要請で支援を開始する。GPA評価が3.5以上であることが求められる。

3) 入学登録後から授業開始前のプログラム

登録後から授業開始前のプログラムは、大学レベルで学業ができるように入学生の準備を加速させるプログラムとして位置づけている。アメリカの大学において、大学の入学レベルの語学力に到達するためには、全米英語学校のステージにおいて最高のレベル10が必要である。2011年度からレベル10を目指す10単位プログラムを設定し教員と学生との1 on 1が行える環境を整備している。結果、前年のレベル10の5単位(1 on 1でない集合学習)プログラムを履修した学生の合格率が56%だったのに対して、あらたなレベル10の1 on 1 Plusプログラム(10単位)の合格率は83%となり、32%の改善につながった。この結果から、ハイラインでは、高校の成績などをみて、その入学生のバックグラウンドにあった適切なレベルを図り、コースに導くことが重要であることを学んだ。あらたな10レベル1 on 1 Plusサポートプログラムは、英文法だけでなく暗記法や教材の使い方等の学習スキルもサポートしている。その中で「必ずうまく行く」とGRIT理論等を実践で活用し³⁾、動機付けしながら自覚を持たせている。結果、改善につながっている。したがって、プレイスメントサポートは、その学生の素質を見抜いてあげることが第1ポイントである。

4) 授業開始後のプログラム

授業開始後のプログラムは、学生の持続性のためのサービス提供として位置づけている。ハイラインカレッジでは、プレイスメントサポートの後も、入学早々から1 on 1による英語教育プログラムを実施している。このプログラムは、毎年入学生の約80%の学生が受講しているが、テキストを用いた対面のクラス形式とオンライン形式がある。どちらもプログラム内容に違いはなく、授業の履修パターンや自分の仕事のスケジュールに合わせて、オンラインにより受講している学生が多い。特に夜間の学生となるとオンライン活用の頻度が高い。柔軟に学習機会を提供するという姿勢を大切にしている。オンラインでは制限を設けた上でチャットを活用している。ある課題に対し週2回は教員が意見を述べる。学生たちは課題に対して週3日間は対話をする。学生の中にネットを使えない学生もいる場合には、パーソナルコンピュータでの初歩的なファイリングから教え、ネット情報の整理の仕方までを教えている。

(3) ハイラインカレッジのまとめ

ハイラインカレッジでは、アセットベースを強調したプログラム、チューター・メンターの配置及び初年次を担当する教員による1 on 1プログラム（プレイスメントサポート及び英語プログラム）が重要である。なお、チューターはチュータリングセンターに配置され、メンターはアセットベースプログラムに配置されている。学業定着方略のキーワードは、1 on 1である。包括的に生活・心理面をとらえながら、キャリアに沿った単位のととり方、学習方法、奨学金申請支援等、一人ひとりへの支援を大切にした教育方針を徹底することを重視することで、定着率をあげることができる。なかでも、家族のなかに大学経験者がいない学生一人ひとりへの支援が重要である。

5.2 ベルビューカレッジにおける学業定着方略

ベルビューカレッジでは、はじめに国際部長からベルビューカレッジの学業定着方略のおもな特徴について説明を受け、次に、入学登録から第1学期までのおもな学業定着方略について、学生指導担当副部長、スチューデントサクセスサービス部長、カウンセリングサービス部長の3名の分担による説明を受けた（調査日は2015年10月26日）。

(1) 概要

ベルビューカレッジは、1966年に創設された2年制及び4年制のカレッジであり、毎年32,000人以上の学生が在学する。ミッションは、卓越した教育を提供することに専念し、学生の生涯にわたる教育開発を促進するとともに、多様なコミュニティの経済的、社会的、文化的生活を強化することである。また、カレッジは、高品質、柔軟、アクセス可能な教育プログラムとサービスを提供することにより、学生の成功を促進する。さらに多元主義、インクルージョン、グローバルな意識の向上を進め、活気のある地域の触媒及び協力者として機能するとしている。おもな成果として、認証評価において、114項目中100以上でA評価を取得しており、教育レベルが高いカレッジである。特に、①学生の成功、②教授と学びの方法、③学生の多様性を重視した学生生活、④地域連携の項目が、7年以上効果を上げ続けている。上級生メンターを活用しながら第1年次第1学期から第2学期への学業定着率を82%にしている。なお、授業料は、ハイラインカレッジと同様である。

(2) 学業定着方略のおもな特徴について

ベルビューカレッジにおける学業定着方略として必要な構成要素と手順は以下である。まず、構成要素は、アセットベースプログラムの開発と運営、及びアカデミックサクセスセンターのチューター、キャリアセンターのメンター開発である。次に手順としては、①大学への所属意識と誇りを感じてもらふこと、②学業への期待と大学文化について記述すること、③履修科目とキャリアゴールを計画すること、④大学での支援サービスを理解す

ること、⑤多様な学習方略を実践すること、⑥大学での人種・民族に渡る多元的共存を理解すること、⑦人間関係の開発を理解することである。

1) 入学登録後から授業開始前のプログラム

ベルビューカレッジの入学者は、現在16歳から77歳までである。履修登録開始時は、1クラス24名以下に分けてフォローする。登録開始時に徹底していることは、新入生を対象に学期が始まる前に必ずプレイメントテストを実施することである。英語スコアが低い学生は、英語コースのレベルが必然的に決まる。そのフォローは独自教材を開発して教育支援を行なっている。

以下に、登録後から授業開始前のプログラムにおいて、重視している二つを述べる。まず一つ目は、プレイメントサポートである。英語と数学のプレイメントテストは、全米で活用しているCompass⁴⁾を使用している。新入生は初年次経験コースの授業を選ぶことになるが、アカデミックアドバイザー（職員）のサポートにより、各自の学習目標に応じた最適な授業選択が可能となる。初年次経験コースの1クラスの平均人数は20から30人であり、徹底した少人数制を採用している。授業はインタラクティブである。

次に二つ目として、スチューデントサクセスコースがある。ここで学生はこれまでのキャリアに応じて三つのグループに分けられることになる。その指標は、家族で初めてカレッジに入学する学生、低学力の学生、障害を持った学生、及びスポーツ推薦学生別などである。その三つのグループとは、①TRIO一団、②学生競技者、③大学で長い時間勉強する学生（成績不良、障害のある学生）である。この三つが、ベルビューカレッジのアセットベースとなる。学生たちに対して、以下の七つを理解するコースを手順よく実施しながらフォローしている。それぞれのコースゴールとして、①大学への所属意識と誇りを感じてもらうこと、②学業への期待と大学文化について記述すること、③履修科目とキャリアゴールを計画すること、④大学での支援サービスを理解すること、⑤多様な学習方法を実践すること、⑥大学での人種・民族に渡る多元的共存を理解すること、⑦人間関係の開発を理解することが設定されている。

2) 授業開始後のプログラム

成績不良学生には毎学期ごとに4段階に分けて指導が行われる。例年、第1学期目に10%程度の学生が、成績不良に該当している。まず、その対象学生には注意喚起の通知が出される。次に、2学期連続して成績不良の学生には、科目登録システムをオンラインブロックして登録できないようにして、その後教員、アカデミックアドバイザー、カウンセラーの何れかがカウンセリングをおこなう。さらに、3学期連続して成績不良の学生には1学期間の登録停止とする。その場合はどういう方法で復帰するか自らが考え、教員、アカデミックアドバイザー、カウンセラーの何れかにきちんと説明し、認められると登録が可能となる。4学期連続して成績不良の学生に至っては、1年間登録停止となる（Cory *et al.* 2015）。

その介入チームは、アカデミックサクセスセンター、公共安全センター、障害リソース

センター、多文化サービスセンター、(学費等の)学生問題センター、国際教育センター及びカウンセリングセンターそれぞれの部署の責任者で構成する。まず、国のシステムである Maxient⁵⁾ を週に1度活用し、このシステムの書き込み内容を検討する。次に、案件に応じて上記の各部署との間で連携組織をつくり実施する。重篤ケースを検討するシステムではなく、オンラインで不良行動を示す学生などに対しては学校とコミュニティ資源が協働して対象学生とコンタクトする。次に、学生における各部署の共通課題としては、金銭、仕事との両立、子育てとの両立、高校での成績不良、入学後の再試験による学力不足などがある。特に英語と数学に課題がある。これに対して英語と数学の教育・訓練キャンプ(1週間)で、1 on 1のフォローを実施している。この2科目は重要だが嫌いな学生が多い。問題解決方法としては様々な支援活動がある (Cory *et al.* 2015)。

連邦政府事業の TRIO 学生サポートプログラム、アカデミックアドバイザー及びアカデミックサクセスセンターがあり、これら三つは頻繁に連携がされる。アカデミックアドバイザー職員が、苦手科目のある学生に対して、その実力にあった支援をする。さらに、アカデミックサクセスセンターは、プレイメントテストにより、成績不良者となった学生に対して大学生活が送れるレベルに到達するように、普通教育レベルの読む、書く、数学についてフォローしており、その方法はチューターによる対面支援やE-ラーニングである。

また、課題を抱える学生が多いので、カウンセラーを増やし、支援のできる上級生メンターを育成し増やしている。さらに、インターンシップの学生に対してのメンターを行っている。このメンターは、在校生、それ以外のOB及び地域の高齢者ボランティアという学内規定に合致したことを確認した後、8時間の講習受講と25時間のチュータリングを受けて初めて認定され、その任に就くことができる。そのメンターが配置されるのはキャリアセンターである。キャリアセンターの重要な機能は、学生と職業の接続のため地元の雇い主との専門の関係を確立することである。そのため、カレッジと企業をインターンシップでつなぐ役割や新しいインターンシップの窓口を開発し、就職口として結びつけることに力を入れている。プログラムとしては、模擬面接、採用イベント、クラスワークショップ及びジョブフェア等がある。そのため雇用者参加の手配をすること、大学と企業との間で共同のプロジェクトを増やすこと、大学寄付金を増やすために潜在的サポーターを見つけることを行っている。

(3) ベルビューカレッジのまとめ

ベルビューカレッジでは、学生支援を担当する各センター間の連携が重要である。支援人材としては、アカデミックサクセスセンターにおけるアカデミックアドバイザー及びチューターと、キャリアセンターにおけるメンターを重視しており、基礎学力、インターンシップ、キャリア開発に渡り包括的に支援している。特に、学業定着方略のおもな特徴としてあげた七つを理解するコースゴールに手順よく導いている。

5.3 グリーンリバーカレッジにおける学業定着方略

グリーンリバーカレッジでは、はじめに国際部ディレクターと国際部プログラムマネージャーからベルビューカレッジの学業定着方略のおもな特徴について説明を受け、入学登録から授業開始1学期までのおもな学業定着方略については、学生担当副学長からの説明を受けた（調査日は2015年10月30日）。

(1) 概要

グリーンリバーカレッジは、1964年に開学された2年制及び4年制のカレッジであり、現在19,113人の学生が在学する。ミッションは、包括的な教育プログラムと多様なコミュニティに対応したサポートサービスを通じて、学生の成功を保証することである。基本的な価値観に学生の成功をあげ、優れた教育と学習、包括的なサポートサービスを通じて、学生の参加、定着、修了をサポートすることを宣言している。主な成果としては2013年度ポール・サイモン・アワードにて、質の高い学校に贈られる「統括的なキャンパスの国際化」の部門で受賞した。新入生にメンターによるアドバイスをを行ったところ、2015年1年次第1学期から2学期への学業定着率は88%になった定着率の高いカレッジである。なお、授業料は、前出の2校と同様である。

(2) 学業定着方略のおもな特徴

グリーンリバーカレッジにおける学業定着方略として必要な構成要素と手順は以下の通りである。まず、構成要素はアセットベースプログラムの開発と運営並びにチュータリング&リソースセンターに配置されるチューター及びスチューデントアフェアー&サクセス（学生問題と成功）センターに配置されるメンターの開発である。次に手順としては、①同じ目標を持つ学生が多くいる環境を作る、②自分を評価しながら今後どうしていくかについて上級生メンターと考えていく、③上級生チューターが教科のウィークポイントをフォローする、④奨学金援助が受けられるよう事務手続きの援助をするという4工程が重要である。

1) 入学前（登録前後）のプログラム

グリーンリバーカレッジ本科生の入学前における準備教育は多岐に渡る。本科生登録者に対する接点と方法としては、あらたな訪問モデルがある。それは訪問の試みと地域協力によって成り立つものである。入学後のコースの選定として、選択数を増やすことに重点を置いている。コミュニティカレッジへの定着教育として、まず、高校でのCompassの結果を学力基準として採用している。その他は、キャリア開発に必要な条件、学業計画に必要な条件、リーダーシップと市民との関わりに必要な条件を学ぶこと、Bachelor of Business Administration Program（BBA：ビジネス管理学士プログラム）の見学、K-12 Dual Enrollment Partnerships（College in the High School：高校との単位互換の提携）、地域ボランティア、SATテストの予習、奨学金調査、大学訪問見学などのカレッジと結びつ

いた活動 (College Bound Activities)、インターンシップを用いた職業的、技術的な仕事力教育 (Workforce Education)、退役軍人とその家族のための AmeriCorps Program、Veterans Corps などの職業・技術教育、あらたな応用科学学士 New BAS (Bachelor of Applied Science) Programs 見学がある。これらの活動の中から、それぞれのプログラムからどんな学生が入学するのかわかる仕組みになっている。それは学生のタイプ分類ができるようになってきているということである (Casey 2015:1-19)。

主なタイプ分類は、①入学レベルに学力が達していない基礎を学ぶ学生、②4年制大学へ編入する学生、③その他の選考学生である。この三つがグリーンリバーカレッジのアセットベースとなる。入学レベルに学力が達していない基礎を学ぶ学生には、家族の中でカレッジに初めて入学する者が多い。その親には保護者教育を開始する。同時に、高校時代の状況をマーケティングする。続けて、入学許可後には、奨学金申し込みの支援、キャリア希望と高校成績に応じたコース登録支援、TRIO サポートを行っている。また、少数民族である Muckleshoot 種族やソマリア難民も対象学生には多く含まれるので学校及びコミュニティとの接続のためのイベント開催の支援を行っている (Casey 2015:1-19)。

2) 授業開始後のプログラム

まず、学生自身の期待だけでなく、実際自分が学習到達したレベルを自分で認識することが重要である。また18歳以下の1年生は、大学と親とのコミュニケーションが重要である。College Experience (CE) Class は、入学してから第1学期目の5週間に渡るクラスで週3時間ずつある。そのクラスで Foundation for Success というメンタリングプログラムを実施している。

これは、上級生のメンターが新生に支援する毎週行われるセミナーである。主題は、学生生活、健康と安全、意思決定、及び時間管理で、両親への詳しい経過報告を伴う。メンターはキャンパス内に150人登録されている。在校生の80%が、4年制大学に編入している。次に入学願書から入学者確定の歩留まり率を高めるために、第1学期前のオリエンテーションにおいてメンターを介入させる。というのは、早い時期に学習定着に課題を抱える学生をキャッチすることが重要だからである。その学生用に教育プログラムをひとり一人作成してカスタム化している。これまで7,000件作成した。自分のキャリアを考えてもらえるようにフォローしているのである。その際、選択分野のキャリアを学生に分析させることが重要である。

カリキュラムは職種につける科目を強化して、一般教養は削減している。さらに、第1学期、第2学期に渡り、キャリア分析のための「カレッジコース」という科目を選択する。第2学期までにこの科目を履修しないと3学期に進めない仕組みになっている。授業のノートの取り方や試験に向けての取り組み方など、今後大学でどのように歩んでいくかについて学ぶものである。これは学業定着に有効である。このコースは2%のドロップアウトで収まっている。

その他第1学期には、学生個々のキャリアゴール探求と大学での履修プランニングがう

まくつながるようにメンター支援がある。また第1学期修了後も再度続いて、履修プランニングの支援が継続される。第1学期中に入学生に対して、メンターによるアドバイスをを行ったところ、第1学期から第2学期への学業定着率は88%になり、アドバイスを行わなかった入学生の学業定着率の63%を25%ポイント上回った。さらに、TS101と呼ばれるキャリア分析支援を受けた入学生は、第1学期から第2学期への学業定着率は82%で、行わなかった入学生の63%の定着率を19%ポイント上回った。この取組みによって、メンター導入以前の2013年度は、1年次第1学期から第2学期へのフルタイム入学生全体の学業定着率は、62%だったものが、2014年度には80%に上昇した。よって、個別支援は成果をあげている (Casey 2015:1-19)。

(3) グリーンリバーカレッジのまとめ

グリーンリバーカレッジでは、授業開始前のクラス分けにおいて、同じ目標を持つ学生が多くいる環境をつくり、授業開始後にファンデーションサクセスというメンタリングプログラムにおいて、早めに課題学生をタイプ分類してチューター及びメンターが支援するという方針・方法を取る事で、学業定着率を飛躍的に向上させることができる。

具体的には、①同じ目標を持つ学生が多くいる環境を作る、②自分を評価しながら今後どうしていくかについて上級生メンターと考えていく、③上級生チューターが教科のウィークポイントをフォローする、④奨学金援助が受けられるよう事務手続きの援助をするという四つが重要である。さらに、18歳以下の学生の場合は、併せて親と大学教職員とのコミュニケーションが重要である。

6. 結論と課題

ワシントン州のコミュニティカレッジにおける学業定着方略として、三つのカレッジそれぞれの学業定着方略（構成要素と手順の計画）についてKJ法によって分析したところ以下ようになった。

まず、構成要素として、アセットベースプログラムの開発と運営、サクセスセンター等に配置されるチューター及びメンターの開発が重要である。続けて手順として、①アセットベースプログラムに登録させる、②今後のキャリアと履修科目の計画についてメンターが支援する、③教科の弱点についてチューターが支援する、④奨学金申請の事務手続きについて支援するという四つを実施することである。なお、18歳以下の学生に限定して、親と大学教職員とのコミュニケーションが付加される。次に、方略を実現する専門組織として、サクセスセンターを中心にした組織が重要である。サクセスセンターが、学内における学業定着上の中核組織として他部署と連携しながら、在校生の定着向上を目指して業務にあたっている。その支援人材として、サクセスセンターを中心にして教員、職員、チューター及びメンターたちが役割分担しながら課題を抱える学生に対応している。なお、ワシントン州では、チューター及びメンターの機能を明確に分けて設計がされてい

る。人材育成と配置は、その機能に従って実施されている。本調査結果より導かれる専門職大学における学業定着方略のための示唆として、ワシントン州コミュニティカレッジでは、上記の通り学業定着方略計画がきちんとなされ、専門組織が築かれていることである。また、学業定着方略上、鍵となるのはアセットベースプログラムと、チューター及びメンター開発である。

以上が専門職大学における学業定着方略への手がかりになると考えられる。しかし、本調査は、ワシントン州の三つのカレッジ調査に限定されている。専門職大学への示唆を得るためには、さらに今後も他カレッジの継続調査をすすめるという課題を残している。

注

- 1) America's College Promise 構想の推計によれば、2020年までに求人数の35%は学士号相当の30%は准学士号相当の学位・資格が、必要になるとしている。
- 2) WGU (2019) は、チューターについて、あらたにインストラクターという呼称を用いている。調査年の2015年から2018年までは、チューターの呼称を用いていた。双方は、呼称は異なるものの機能としては同じである。
- 3) Angela Duckworth の GRIT (やり抜き力) 理論を中心に、Donna Beegle のエッセイ Communication Across Barriers を全学共通で使用しているとのこと。
- 4) Compass とは、英語を母国語としない学生たちのための読解力、作文、数学から成るプレメントテストのことである。
- 5) Maxient とは、全米で使用されている大学保安のための学生情報システムソフトウェアのことである。

引用 (参考) 文献

- American Association of Community Colleges, 2004, *Improving Access to the Baccalaureate*, Washington, D.C.: Community College Press.
- American College Testing Program, Inc, 2010, *What Works In Student Retention? Fourth National Survey Report for All Colleges and Universities*, Iowa: ACT, Inc.
- Casey, Deborah, 2015, *Enrollment, Retention, Completion*, Washington: Green River College.
- Community College Baccalaureate Association, 2013, *Baccalaureate Conferring Locations?*, (<https://www.accbd.org/wp-content/uploads/2013/10/Conferring-Institutions.pdf>, 2019.1.25)
- Cory, Rebecca, Blackstad, Ana, & Martel, Steben, 2015, *Student Dropout Prevention Measures*, Washinton: Bellevue College.
- Gay, Geneva, 2015, *The UMOJA Black Scholars Program brochure*, Washington: High Line College.
- MESA Center, 2015, *MESA Mathematics Engineering Science Achievement*, Washington: High Line College.
- Petrosian, Anahid, 2017, "Should Community Colleges Confer Baccalaureate Degrees?: Overview of Arguments For and Against," 2017 ACCT Leadership Congress.
- Povich, Elaine S. 2018, "More Community Colleges Are Offering Bachelor's Degrees: And Four-Year Universities Aren't Happy About It," *Stateline*, April 26, 2018.
- Student Success Center, 2015, *TRIO Student Support and Retention Services*, Washington: High Line College.
- WGU, 2019, *Our Faculty: Student-facing Faculty* (http://washington.wgu.edu/about_WGU_washington/wgu_faculty/2019.9.9)

- 金子元久, 1994, 「高等教育と市場メカニズム—高等教育改革の国際的動向」『教育社会学研究』55:23-36.
- 鈴木克明, 2000, 「教授方略」日本教育工学会編『教育工学事典』実教出版, 210-213.
- 谷川裕稔, 2001, 『アメリカコミュニティカレッジの補習教育』大学教育出版.
- 寺田貢・志田秀史・菊地克彦, 2018, 「専門職大学におけるリメディアル教育」『リメディアル教育研究』12:105-111.
- 中央教育審議会, 2005, 『我が国の高等教育の将来像(答申)』文部科学省
(http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/attach/1335594.htm, 2019.9.26)
- 中央教育審議会, 2018, 『2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申)』文部科学省 (http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1411360.htm, 2019.9.26)
- 山田礼子, 1997, 「アメリカの高等教育政策とコミュニティカレッジ」『高等教育ジャーナル』2:268-282.